2014 年 10 月 1 日発行

点訳通信

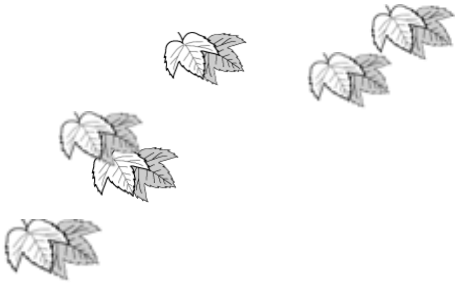
83号

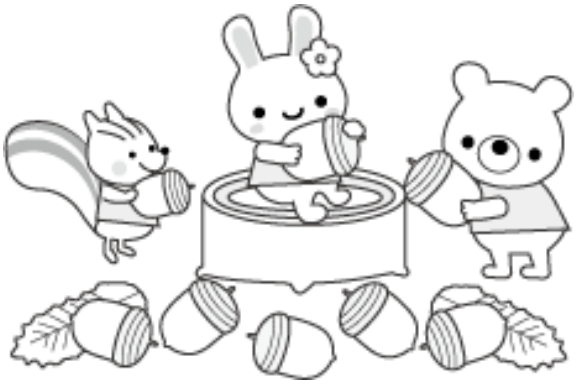
日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者　竹下　亘
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）

こつんと白杖の先が前から歩いてきた人の足元に当たった瞬間、「チェッ」と短く鋭い反応。「ごめんなさい、わざと当てたわけじゃないんです」と心の中でつぶやく。

今年の夏に起こった視覚障害者の外出中での悲しい事件を思い浮かべると、どうにも防ぎようのないことばかりで胸が痛みます。温かい言葉をかけ合ったり、困った人を手助けしたりして、だれもが安心して暮らせる社会になってきていると思いますが、これからもお互いを理解し合う気持ちを大切にしたいと感じています。

（点字製作係　奥野真里（おくのまり））





(C)WANPUG

【 開室・休館のお知らせ 】

１０月１１日（土）開室
１１月２２日（土）開室
１２月２３日（火）休館（天皇誕生日）

●「校正勉強会」報告

日本ライトハウスの蔵書製作における目次の書き方、ページ替え等に関する基準

2014・１０・１

「目次の書き方」や「見出しの書き方」「ページ替えの仕方」などが曜日によって異なっているので統一した基準を明示して欲しいという意見が、曜日担当者会議で出されました。これらの基準が作られてからかなりの年数が経過しており、点訳する人によってさまざまな違いが生じているようです。

当館の従来の基準を整理するとともに、７月の校正勉強会で種々の原本を持ち寄って検討した結果も反映させました。

冒頭に【新】と付記したものは、今回、新たに変更・追加した基準です。

現在点訳中・一校正中のものから、この基準を適用してください。すでに二校正に回っているものはこれまでの基準に従います。

１巻あたりのページ数・巻割りの仕方

①原則的に蔵書は、１８行設定で点訳し、１巻に収めるページ数は、表紙・目次・奥付などを含め、１００～１６０ページ（５０～８０枚）にします。

１巻目は１６０ページ、２巻目は１３０ページのように、各巻のページ数は均等でなくてもかまいません。

＊１６０ページ以上、または１００ページ以下になる場合は、職員に相談してください。

＊個人依頼のものや、教科書などについては、２２行設定で点訳することがあります。その際は、１巻あたり５０～８０ページ（枚）に収めます。

②点訳書が複数巻になる場合、章または節で分冊します。やむなく章または節の途中で分冊する場合は、行空けの箇所や適当な段落で区切ります。その際、続きの巻に見出しを再掲し、１マス空けて点訳者挿入符で「ツヅキ」と書きます。

ページの付け方

①目次・奥付は奇数ページから始め、ページ付けはしません。
②目次が３ページ以上になる場合は、「目次ページ」をつけます。
③目次が終わったあとは用紙替えをして、１ページから始めます。

目次の書き方

①目次は表紙の次に用紙替えをして書きます。

②各巻の目次には、その巻に収められている見出しを記載します。
また、原本に目次がない場合でも、本文に見出しがあれば、点訳書では目次を作ります。

③辞書類や実用本など検索を要する図書では、第１巻の目次の後に、全巻の大まかな見出しを記載する場合があります。
第１巻の目次終わりの１２マス棒線のあと、１行空けて、５マス目から「第２巻」のように書き、各巻の大まかな見出しを記載します。ページ数は入れません。
なお、第２巻以降には記載する必要はありません。

④目次の最初は、１行目の１５マス目から「モクジ」と書き、２行目中央に１２マス棒線を書きます。

⑤目次の最後に、１２マス棒線を書きます。ただし、１２マス棒線だけが次のページになる場合は省略します。

⑥ａ　見出しの書き出し位置は、段階に応じて工夫します。たとえば、見出しが３種類ある場合、大きい順に、５、３、１マス目から書き始めます。（２種類の場合は３、１マス目、１種類の場合は１マス目から）

ｂ【新】「はじめに」「あとがき」「著者紹介」など、本文以外の見出しは３マス目から書きます（本文の見出しが何種類あっても、これらの書き出し位置は変わりません）。また、本文以外の見出しと、本文見出しとの間は１行空けます。（６ページの例参照）

⑦一つの見出しが２行以上になる場合、２行目以降を、その見出しの１行目の書き出し位置より２マス下げます。また途中から次のページに移る場合は、その見出しの１行目から次のページに送り、見出しの途中でページが替わらないようにします。

⑧章または節の途中で分冊した場合、目次のはじめに見出しを再掲し、１マス空けて点訳者挿入符で「ツヅキ」と入れます。

⑨見出しとページ数の間は、２の点の点線（３個以上）でつなぎます。点線の前後は１マスずつ空けます。２の点が一つ、または二つしか入らない場合は、マス空けにします。

⑩見出しの文字は２７マス目までに収め、ページの数符位置は、２９マス目から書きます。
＊点字編集システムの「目次作成」を使うと、ページの数符位置が２８マス目になりますので、手動で２９マス目に修正してください。

⑪原本の目次が本文の見出しの書き方と異なっている場合は、本文の見出しに合わせます。ただし、長い副題がついている場合、点訳書の目次では省略することがあります。判断に迷う場合は職員に相談してください。

⑫目次が３ページ以上になる場合は、「モクジ１」、「モクジ２」のように目次ページを付けます。目次ページの数符は、２８マス目にくるように書きます。

「点訳書凡例」「献辞」「はじめに」「著者紹介」などの書き方

①**【新】**「点訳書凡例」の書き方
点訳書凡例に複数の項目がある場合は、用紙替えをして、「点訳書凡例」と見出しを付けて書きます。点訳書凡例が短い場合、項目が一つしかない場合は、第１巻目次終わりの１２マス棒線の後に１行空けて、３マス目から点訳者挿入符で囲んで書きます。

②「献辞」「はじめに」「序文」などの書き方
「献辞」「はじめに」「序文」などは目次と本文の間に入れます。目次のあと、用紙替えをし、原本通りの順番で、それぞれページ替えをして記載します。

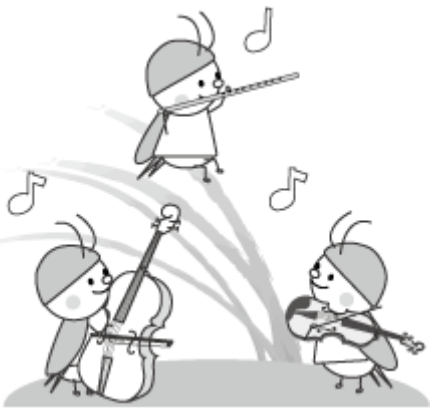
本文は用紙替えをして奇数ページから始めます。
なお、「献辞」は内容や長さもさまざまです。短い献辞（点字数行から半ページくらいまで）は、本文の開始ページの冒頭に挿入し、１行空けて本文の見出しを書くようにします。

③「あとがき」「解説」などの書き方
「あとがき」「解説」「参考文献」「著者紹介」などはそれぞれページ替えをします。

④見出しの書き出し位置
「点訳書凡例」「序文」「はじめに」「あとがき」「参考文献」「著者紹介」などの見出しは、本文の見出しの種類や書き出し位置に関係なく、７マス目から書きます。

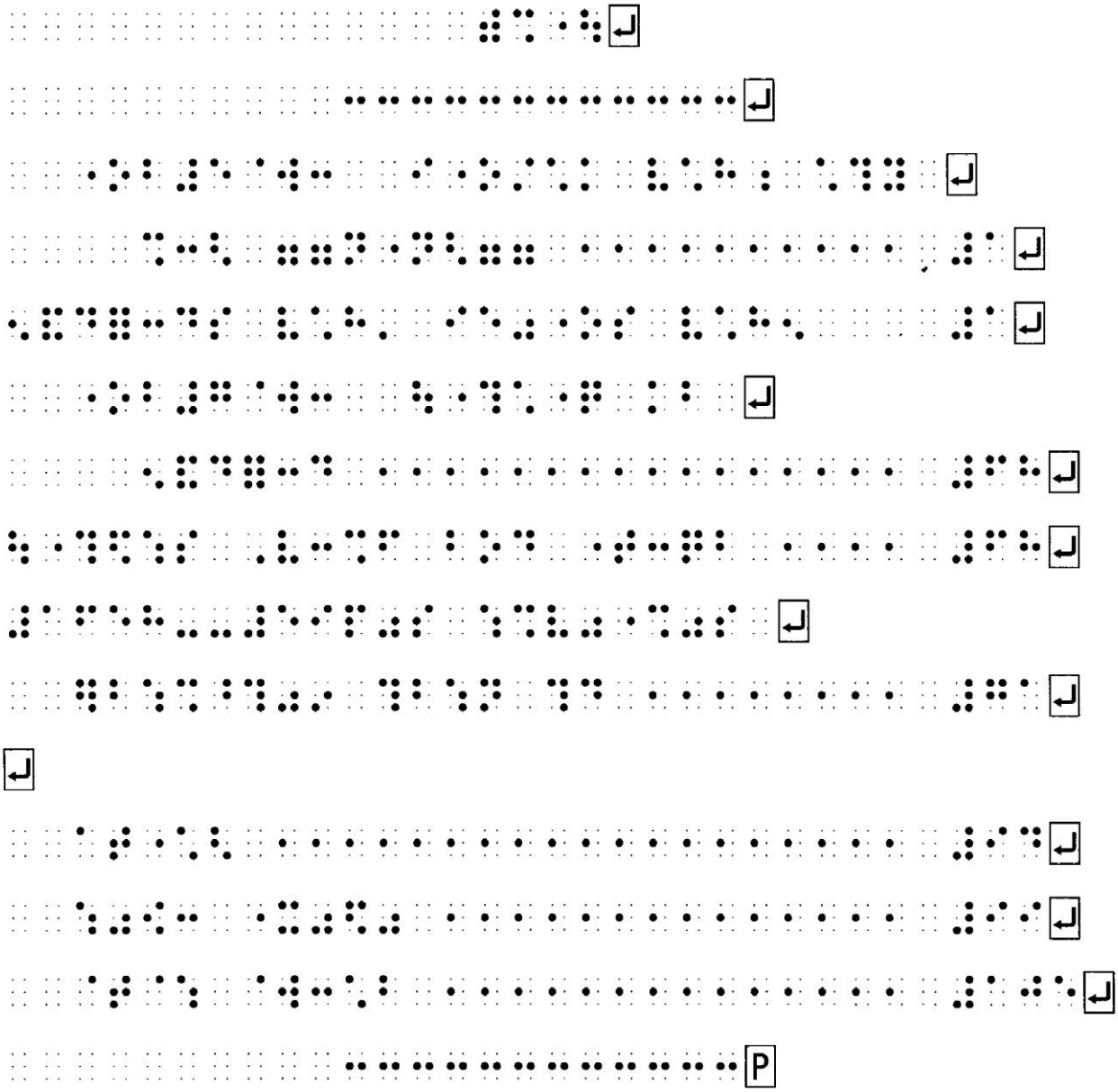
⑤表紙カバーに著者紹介や登場人物の紹介がある場合
「著者紹介」や「登場人物」が表紙カバーに書かれていることがあります。
「登場人物」は第１巻の本文の前に、「著者紹介」は最終巻の奥付の前に入れます。
書き方は②③④に準じます。
それぞれ見出しをつけ、目次にも入れます。

⑥**【新】**洋書の版権表記について
洋書を点訳する場合、版権を最終巻の奥付の前に記載します。「全巻終わり」と書いたあと、ページ替えをし、見出しは書かずに版権の内容を書きます。



(C)WANPUG

〈目次の点訳例〉



☆ 読者からのおたより ☆

当館が点訳した図書を読んだ読者から、感想のおたよりをいただきました。大阪の歴史書で、地名も多く掲載されており、読み方の調査に時間を要しました。また、地名の漢字に現表記と旧表記とが混在し、それらの情報を伝えるべきなのか、説明をどのようにすればよいのかといったことについて、点訳者と校正者の間で何度も意見が交わされました。

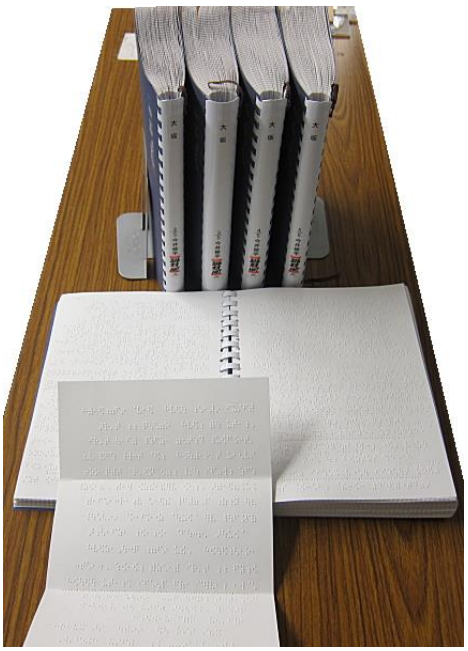
点訳するには難題の多い図書でしたが、そんな苦労も吹き飛ばしてくれるような嬉しいおたよりを紹介します。（点字で書かれたものを墨訳しました。）

「前略　ごめんください。

このたび　あなた様の点訳してくださった『街道の日本史３３　大坂―摂津・河内・和泉』全５巻を拝読しました。たいへんいい図書を手がけていただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

私の両親は代々現在の泉南市に住み、私は結婚後は大阪市に住み、平成１７年に妻がすい臓がんで亡くなるまでの間住み続けた地であるだけに、近畿一円を視野に入れた本書は、とても心安らぐ図書でした。今は当地に勤務する長男宅に引き取られ元気に点字図書を愛読しています。これからもいい図書の点訳をお願いいたします。まずは御礼まで。」

『街道の日本史３３　大坂―摂津・河内・和泉』（今井修平・村田路人編、吉川弘文館、２００６年刊）：現在の大阪府全域と兵庫県の南東部を含む摂津国・河内国・和泉国。近世に「天下の台所」大坂の後背地として栄えたこれらの地域の歴史と文化を新しい視角から描いた通史。



『街道の日本史３３』の点訳本５巻と
読者からのお手紙

●「教科書点訳連絡会」セミナーのご案内

デジタル教科書と点字教科書の今後を考える

日時：平成 26 年 11 月８日（土）13：00～16：15（12 時半より受付）
会場：名古屋市総合社会福祉会館（７階・大会議室）
　　名古屋市北区清水四丁目 17 番１号（連絡先：052-911-3191）
定員：100 名
参加費：会員 500 円、非会員 1,000 円

文部科学省は、現在、全ての児童・生徒へのデジタル教科書の普及を進めています。

デジタル教科書になれば画面を拡大することができ、音声で内容を確認することができるなど、学習障害や、弱視の児童・生徒にも有効な学習教材であるとして期待されています。しかし、点字を使用する児童・生徒にとってデジタル教科書はどのように活用できるのでしょうか。点字教科書とデジタル教科書との関連を考える上で、まずはデジタル教科書とはどのようなものなのか、その可能性と課題を考えてみたいと思います。また、それに関連して、音声教材と点字教材の併用に関しての取り組みを発表します。

後半は、今年の春に教科書点訳連絡会が発行した『教科書点訳の手引』の活用方法について研修を行います。

● テーマ　「デジタル教科書と点字教科書の今後を考える」

● 内　容　13:00　理事長挨拶
　　13:10　講演：「デジタル教科書とは何か」成松一郎氏（読書工房）
　　14:10　休憩
　　14:30　発表「視覚障害児童生徒のための音声教材について―視覚的資料の音訳と、点字教科書との併用の効果―」
　　久保田文氏（日本ライトハウス情報文化センター）
　　15:00　研修：「教科書点訳のてびき」の活用法　加藤俊和氏（教科書点訳連絡会理事）
　　16:15　閉会

＊参加を希望される方は、10 月 30 日（木）までに点字製作係までご連絡ください。